

2010年度 前期	曜日・校時 月2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566005001 授業科目/(英語名)	●社会と歴史(観光と地域づくり入門) Society and History		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 1 2 4	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 深見 聡 / fukami@nagasaki-u.ac.jp / 環境科学部本館 1階 116号室 / 095-819-2720 / 火曜 13:00-16:00			
担当教員(オムニバス科目等)	深見 聡		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 日本は人口減少社会を迎え、各地で地域の特性を活かした「地域づくり」への関心が高まってきている。とくに、交流人口を生み出す「観光」に期待が向けられている。そこでこれから私たちが快適に生活していくには、地域特性を把握する視点や手法、地域にみられる事例を知り、比較検討することが不可欠であることを知る。 授業方法(学習指導法): テキストや新聞記事等の配布資料を中心として、視聴覚機器(パワーポイントやビデオ)を用いながら進めていく。 到達目標: 「観光」「地域づくり」の定義と実際、その種類と内容の理解を基礎として、九州各地をケーススタディに、観光と地域コミュニティのかかわり、人間環境(人文環境)や自然環境への影響、住民と行政が協働した地域づくりのあり方などについて、それぞれの理解を深める。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第16回 8/9 試験 第1回 4/12 オリエンテーション 第2回 4/19 観光とは何か 第3回 4/26 観光へのアプローチ手法 第4回 5/10 観光と地域住民① -『篤姫』『龍馬伝』と観光ボランティアガイド- 第5回 5/17 " ② -エコミュージアム- 第6回 5/24 " ③ -世界自然遺産- 第7回 6/7 " ④ -世界文化遺産- 第8回 6/14 " ⑤ -近代化産業遺産- 第9回 6/21 観光と地域社会① -災害復興とアートマネジメント- 第10回 6/28 " ② -都市での展開- 第11回 7/5 " ③ -島嶼での展開- 第12回 7/12 海外の観光事情① -韓国の事例- 第13回 7/26 " ② -中国安徽省の事例- 第14回 7/30 安全学からみた観光教育 第15回 8/2 環境教育と観光			
キーワード	地域活性化、地域資源、NPO、コミュニティ、持続可能性、九州・沖縄の観光		
教科書・教材・参考書	教科書: 深見聡・井出明編著『観光とまちづくり』(古今書院、2010年) 教材: 適宜プリント等を配布する。 参考書: 宮口侗迪『新・地域を活かす- 一地理学者の地域づくり論- 』(原書房、2007年) 宮崎猛(編著)『これからのグリーン・ツーリズム』(家の光協会、2002年)		
成績評価の方法・基準等	期末試験(または期末レポート)70%、中間レポートの提出(1回)30%を基準として総合的に評価する。 *自主的に講義感想等の小レポートを提出した場合、加点の対象とすることがある。 *期末試験を実施する場合、教科書・ノート・配布プリントの持ち込み可。		
受講要件(履修条件)	なし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	講義用ブログを開設しているので気軽に書き込みしてください。 http://blog.livedoor.jp/satoshifu/		

2010年度 前期	曜日・校時 月3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566005002 授業科目/(英語名)	●社会と歴史(日本史入門) Society and History		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 429	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 福留 真紀 / fukutome@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部本館6階614号室 / / 水曜5限			
担当教員(オムニバス科目等)	福留 真紀		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 日本史の入門編として、高校までの教科書通りの暗記モノになりがちだった「日本史の勉強」から卒業し、各自で疑問を持ち、史料を読み解き、真相に近づく方法を学びます。 授業方法(学習指導法): 教材はプリントを配布し、それをもとに講義形式で進める。毎時間終了時に、小レポートを課し、考えをまとめ、提出させる。適宜、参考文献を紹介する。また、パワーポイントなどを使用することもある。 到達目標: 九州ゆかりの出来事を通して、いくつかの歴史的事象について説明することができる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 「日本史」の入門編として、教室の中ではありますが、皆さんと一緒に九州一周歴史旅行をする講座です。 九州ゆかりの人々をめぐる出来事を通して、「鎖国とは?」「武士とは?」「参勤交代とは?」といった、親しみやすいテーマを、新たな切り口から深く掘り下げ、真相に迫ります。 第1回 ガイダンス ―私と歴史(4月12日) 第2回 大名の種類 ―島津家の位置付け(4月19日) 第3回 「鎖国」とは何か(4月26日) 第4回 島原の乱を考える(5月10日) 第5回 江戸時代初期の大名の交際① ―黒田家・細川家を例に(5月17日) 第6回 江戸時代初期の大名の交際② ―黒田家・細川家を例に(5月24日) 第7回 「武士」とは何か① ―「葉隠」とは(6月14日) 第8回 「武士」とは何か② ―「葉隠」をよむ(6月21日) 第9回 御家騒動を考える① ―御家騒動とは(6月28日) 第10回 御家騒動を考える② ―中津藩主小笠原長胤をめぐる(7月5日) 第11回 大名の引越し① ―転封とは(7月12日) 第12回 大名の引越し② ―延岡藩をめぐる(7月26日) 第13回 平戸藩主松浦静山① ―武士の猟官運動(7月30日) 第14回 平戸藩主松浦静山② ―「甲子夜話」をよむ(8月2日) 第15回 総括(8月9日)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	テキストはプリントを使用します。参考文献は適宜授業中に紹介します。		
成績評価の方法・基準等	小レポート30%、最終レポート70%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標	全学部が対象の授業ですが、九州にまつわる歴史の知識を身につけることができますので、教育学部で社会科にかかわる学生は、特に受講を勧めます。		
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 火1	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566005003 授業科目/(英語名)	●社会と歴史(海洋の制度と利用) Society and History		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 430	
対象学生(クラス等) 1・2年次	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 片岡 千賀之 / kataoka@nagasaki-u.ac.jp / 水産学部海洋社会科学研究室 / 095-819-2802 / 月曜・火曜の午後			
担当教員(オムニバス科目等)	片岡 千賀之		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: この講義では、海洋思想、海洋の利用と開発、海洋制度の歴史を概観し、海の憲法と呼ばれている国連海洋法条約の内容を解説する。また、日本の海洋制度と種々な利用実態についてもふれる。海洋をめぐる国際的な対立と合理的な利用を解説することによって国際社会に対する理解を深め、海に対する関心を高める。 授業方法(学習指導法): 講義形式をとる。教科書は用いないが、授業計画にそって毎回プリント資料を配付する。期間中、課題レポートを課す。課題レポートを作成するうえで参考となるように、最初の講義時間に参考文献を紹介する。 到達目標: 海洋の利用と開発、海洋制度に関する基本的な知識を得る。それによってマスコミで報じられる海洋問題のトピックスが理解できるようにする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 講義の概要、参考文献の紹介、海洋の自由と海洋論争 第2回 海洋の分割と国連海洋法条約の成立過程 第3回 国連海洋法条約の構成と意義 第4回 領海、接続水域について 第5回 国際海峡、群島水域、島の制度 第6回 大陸棚の開発と制度 第7回 排他的経済水域制度(200カイリ制度) 第8回 公海の自由と制度 第9回 深海底鉱物資源の開発と制度 第10回 船舶の航行と制度 第11回 貿易と海上輸送 第12回 日本の海運と領海 第13回 日本の大陸棚と排他的経済水域 第14回 日本の漁業と海洋政策 第15回 定期試験と指導			
キーワード	海洋制度、国連海洋法条約、海洋紛争、海洋利用と開発		
教科書・教材・参考書	最初の時間に紹介する。島田征夫・林司宣編著『海洋法テキストブック』(有信堂)、水上千之『海洋法 展開と現在』(有信堂)		
成績評価の方法・基準等	単位取得要件を満たした者に対して定期試験(70%)、課題レポート(20%)、授業への参加状況(10%)で成績評価をする。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 火4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566005004 授業科目/英語名	●社会と歴史（アフリカ社会の自然誌） Society and History		
対象年次 1年,2年,3年,4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 205	
対象学生(クラス等)	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレ/研究室/TEL/オフィシアワー 波佐間 逸博 /hazama@nagasaki-u.ac.jp/ 熱帯医学研究所4F 国際連携研究戦略本部 /095-819-7894/ 水曜16時30分から17時30分まで			
担当教員(オムニバス科目等)	波佐間 逸博		
授業のねらい/授業方法(学習指導法) / 授業到達目標 ねらい: 自由主義の全世界化に伴う貧富の差の拡大と頻発する低強度紛争、生態系の破壊に代表される地球環境問題、現代社会の直面する対立や矛盾を、私たちはどのように解決できるだろうか。「共存」の原理はこの問いに対するひとつの解答たりうるが、過剰に意味付与された<自己>と、所有の対象として矮小化された<他者>と<自然>のセットからなる近代理性の圧倒する世界において、その理念を現実展開するのは難しい。私たちが他者と共存する社会を構築するためには、個人や集団間の欲望がせめぎあう社会的態様を「ひとつの特殊な仕方でのあり方」として距離化する想像力の振幅の幅が必要である。本講義では、アフリカの自然社会における人びとの生きざまに触れることで、自らの生き方や社会のありかたを相対化しつつ、他者や自然と共鳴しながら共存する社会の実現に向けて落ち着いて考え、能動的に実践できる姿勢を身につけることを目指す。 授業方法(学習指導法): 講義形式を基本とする。パワーポイントやビデオ(DVD)、レジュメ、OHPを使用する。 到達目標: (1) アフリカで実施されてきた人類学的なフィールドワークの方法と、生業形態の違いを踏まえてアフリカの狩猟採集民、農耕民、牧畜民の社会の成り立ちについて簡潔に説明することができるようになる。 (2) 中央アフリカの熱帯降雨林に居住する狩猟採集民や農耕民、南アフリカのカラハリ砂漠に住む狩猟採集民の同時発話やユニゾン、東アフリカの半乾燥地域に暮らす牧畜民の詩歌の事例に基づき、言語的コミュニケーションの多様なあり方と彼らの世界観を理解することができる。 (3) 「平等主義」、「同調」などの日本のアフリカ研究を嚮導(きょうどう)してきた鍵となる概念やそれらから派生した諸概念を相互に関連付けることができるようになる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) <概要>本授業は、多くのフィールドワーカーたちがアフリカ各地域での長期的な調査をとおして観察、記録してきた事実から大きな着想を得ながら、アフリカ地域における複合的で多層的な社会のありかたを具体的かつ多面的におさえることを目的とする。 授業は3部構成となる。「生存の社会経済的基盤」に照準したパートでは、自然に強く依存して暮らす諸社会を事例として、人間が生存するうえでどうしても必要なモノを調達する局面で、人びとが他者や自然との関係をどのように切り結ぶのかを検討する。「相互行為としての世界観」に照準したパートでは、日常的な社会空間を構築している発話や歌、身体的関わりを取り上げ、「自我」をめぐる西洋近代的な認識論と比較することによって、アフリカ在来の相互行為の技法を浮き彫りにする。「共存の原理」に照準したパートでは、特定の集団内外の「他者」を問題意識として据える。具体的には、カラハリ狩猟採集民における平等主義原則とその変容機序、東アフリカ牧畜社会間の民族紛争、西洋由来のアフリカ観の形成過程と批判(「アフリカ捏造」論)を取り上げ、「平和」的共存と「他者」表象のつながりを把握する。この授業を通して、受講生は、アフリカで実施されてきた人類学的なフィールドワークの方法とともに、社会関係の網の目や大きなライフサイクルのなかで人間を捉える世界観を理解することができる。さらにこれらのスキルを身につけることによって、遠くの他者を「対象」的に語る「消費」に耽溺するのではなく、むしろ、自分自身の今後の生き方に対する新鮮な示唆を得ることができる。 第16回 定期試験 第1回 4月13日 ガイダンス：アフリカ概論とアフリカ研究の歴史 第2回 4月20日 生業と社会1：狩猟採集民と農耕民 第3回 4月27日 生業と社会2：牧畜民 第4回 5月11日 労働と交換1：協働と分業 第5回 5月18日 労働と交換2：分配と食物の平均化 第6回 5月25日 生存の社会経済的基盤(小レポートを含む) 第7回 6月1日 コミュニケーション1：相互作用としての会話の様相 第8回 6月8日 コミュニケーション2：身体とコミュニケーション 第9回 6月15日 言語と認識1：歌と交渉 第10回 6月22日 言語と認識2：色彩認識と社会的アイデンティティ 第11回 6月29日 インタラクションとしての世界観(小レポートを含む) 第12回 7月6日 共存の原理1：平等主義のゆくえ 第13回 7月13日 共存の原理2：集団間関係—同盟と敵対 第14回 7月20日 共存の原理3：アフリカへの外部社会からのまなざし 第15回 7月27日 総括：アフリカ社会の自然誌			
キーワード	生態人類学		
教科書・教材・参考書	特定の教科書は使用しないが、以下を主要参考文献とする。『新書アフリカ史』(宮本正興+松田素二編、講談社、1997)、『ヒトの自然誌』(田中二郎+掛谷誠編、平凡社、1991年)、『自然社会の人類学—アフリカに生きる』(田中二郎+伊谷純一郎編、アカデミア出版会、1986年)ほか。		
成績評価の方法・基準等	平常点(20%：出席、ディスカッションへの積極的参加を評価)、小レポート(20%：内容理解と論理性を評価)、定期試験(60%：論述形式で実施。持ち込み可。講義内容をふまえた着想の独自性を評価)。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	本授業には特別な予習や復習は必要ないが、講義を集中して聞き、授業内容を自分の経験と照らし合わせて考えてもらいたい。		

2010年度 前期	曜日・校時 水1	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566005005 授業科目/(英語名)	●社会と歴史(社会学入門) Society and History		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 303	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 松村 真樹 / masaki@nagasaki-u.ac.jp / 留学生センター2階 / 095-819-2253 / 木曜日9時～10時(又はメールによるアポイントメント)			
担当教員(オムニバス科目等)	松村 真樹		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 初めて社会学を学ぶ学生を対象に、社会学の基礎を広く、わかりやすく解説する。社会学が扱う様々なテーマを、われわれの日常生活における身近な問題と関連付けながら紹介する。 授業方法(学習指導法): 受講者が各自課題文献を読むことと、その内容をさらに拡大する形の講義によって進められる。また、ドキュメンタリー番組を鑑賞した後、討論を行なう授業も数回予定している。 到達目標: われわれが住む社会の仕組みやそこに起こる様々な現象を社会的な視点から考察することによって、現実社会についての理解を深めることを目標とする。また、社会学の基本的な概念を使って社会現象を説明する能力を高める。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 毎回、社会学が扱う主要なテーマをコンパクトな形で紹介する。いくつかのテーマについては、関連したドキュメンタリー番組を鑑賞し、その内容について討論する。 第16回 8月4日 定期試験 第1回 4月14日 社会学とはどんな学問か 第2回 4月21日 文化と社会化 第3回 4月28日 家族の機能 第4回 5月12日 ドキュメンタリー鑑賞 第5回 5月19日 教育の社会学 第6回 5月26日 産業と労働 第7回 6月2日 社会階層 第8回 6月9日 ドキュメンタリー鑑賞 第9回 6月16日 ジェンダーの社会学 第10回 6月23日 逸脱の社会学 第11回 6月30日 宗教の社会学 第12回 7月7日 ドキュメンタリー鑑賞 第13回 7月14日 人口動態と社会の変化 第14回 7月21日 環境問題の社会学 第15回 7月28日 ドキュメンタリー鑑賞			
キーワード	Introduction to Sociology		
教科書・教材・参考書	教科書は特に指定しない。毎回、講義レジュメを配布する。また適宜、課題文献を紹介する。		
成績評価の方法・基準等	定期試験(90%) 授業および討論への参加度(10%)		
受講要件(履修条件)	特記なし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	教養課程の社会学 特記なし		
備考(準備学習等)	特記なし		

2010年度 前期	曜日・校時 水3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566005009 授業科目/英語名	●社会と歴史(大学での「学び」を考える) Society and History		
対象年次 1年,2年,3年,4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 227	
対象学生(クラス等) 1-4年次	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 岡田 佳子 / okadayo@nagasaki-u.ac.jp / 総合教育研究棟2F(教育学部へ移動予定) / 095-819-2091(内線2091) / 水 14:00-15:30、あるいは適宜メールで連絡して下さい。			
担当教員(オムニバス科目等)	岡田 佳子		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 皆さんは、「高校までの学びと大学での学びは違う」と大学の先生が言うのを聞いたことはありませんか?聞いたことがないにしても、大学での勉強は高校の時とは何か違う、と感じている人もいるかもしれません。では、大学での「学び」とは一体どのようなものなのでしょうか?皆さんは大学で一体「何を」学んでいるのでしょうか? 本科目の目的は、高等教育論やカリキュラム論などの知見を用いながら、大学で学ぶとはどのようなことなのか、大学でどのように学べばより良い学びにつながるのか、ということについて様々な視点から考えていくことにあります。 また、本科目ではそうした学びを基に、「学生自身による学びのコツ」を集約した“ラーニングティップス”という成果物を作成していきます。(作成例:「初年次学生のためのラーニングティップス」 http://www.rede.nagasaki-u.ac.jp/fye/public/tips/) ラーニングティップスの作成過程を通して、大学での学びとは何かという問題について皆で一緒に考えていきましょう。 授業方法(学習指導法): 本科目では講義と並列して個人ワーク・グループワークを実施し、様々なテーマの演習に取り組んでもらいます。これにより、ティップス作成に必要な様々な能力の修得を目指します。また、仲間と協力しながらラーニングティップスを作成していきます。そのため、授業内外での学生間での話し合いや関わり合い、コミュニケーション力も学習するうえでの重要なポイントになります。 大学での学びについてじっくり考えてみたい人、人と話し合いながら何かを作るのが好きな人、人の役に立つものを作りたい人、あり余るエネルギーを何かのために使ってみたい人はぜひ受講して下さい。 到達目標: ・大学での学習活動についてカリキュラム概念を用いて説明することができる。・適切な調査手法を用いて意見を集約することができる。 ・学生の学習経験をティップスとして一般化した形で表現することができる。・グループメンバーと協力しながら成果物を作ることができる。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週の授業内容を含む) 全体は大きく3つに分けられます。第1回から第4回では理論編として、学生の学習についての研究的な物の見方を学びます。次に、第5回から第7回までは方法編として、人々の意見を集め、まとめるための調査手法について学びます。最後に、第8回から第15回では、それまでの学習成果を基にして、学生自身による学びのコツを集積した”ラーニングティップス”を作成していきます。 第1回 オリエンテーション(講義説明、グループワーク) 第2回 高等教育論からみた大学での「学び」～初年次教育への着目～ 第3回 カリキュラム論からみた大学での「学び」～紙キュラムから学生の学習経験まで～ 第4回 ラーニングティップスとは何か 第5回 グループワークの進め方～ファシリテーション技法を学ぶ～ 第6回 調査法の基礎(1)アンケート調査 第7回 調査法の基礎(2)インタビュー調査 第8回 ラーニングティップス作成① 第9回 ラーニングティップス作成② 第10回 ラーニングティップス作成③ 第11回 中間発表 第12回 ラーニングティップス作成④ 第13回 ラーニングティップス作成⑤ 第14回 ラーニングティップス作成⑥ 第15回 最終報告・全体のまとめ			
キーワード	高等教育、学生、学習経験、初年次教育、カリキュラム、調査法、ラーニングティップス、キャリア		
教科書・教材・参考書	参考書(購入する必要はありません) 溝上慎一(2006)『大学生の学び・入門』、有斐閣田中知子編(2003)『よくわかる学びの技法』、ミネルヴァ書房 森清夫(1995)『新版大学生の学習テクニック』、大月書店		
成績評価の方法・基準等	●評価方法 (1)コメントシート(30%)(2)課題、ワーク(40%)(3)作成したラーニングティップス(30%) ●評価基準 1)授業の内容を理解できているか(2)授業の内容を踏まえたうえでの自分の意見が提示できているか 3)課題・ワーク・ティップス作成に積極的に取り組んでいるか 4)作成した成果物(ワーク・ティップス)が、人にわかりやすく伝わるものになっているか		
受講要件(履修条件)	この授業では、授業外での課題や課外学習・ワークが数多くあります。そのため、学生の積極性や取組を重視して評価を行います。やる気のある皆さんの受講をお待ちしています		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	本科目は、一年生の皆さんにとっては、今後の学習法や大学生活について、見通しが得られる準備的な科目となるでしょう。また、二～四年生の皆さんにとっては、これまで(及びこれから)の学んだ経験を、客観的に捉えるためのヒントを与えてくれる科目となるでしょう。この科目で修得が期待できる能力・スキル・態度は、理解力、分析力、表現力、主体性、コミュニケーション力、チームワーク、創造的思考力です。		
備考(準備学習等)	本科目では、皆さんの提出物等を教育改善のための研究データとして用いることがあります。その場合は、匿名やイニシャル等を使用しますので、個人名が明らかになることは決してありません。また、所定の目的以外にこれらのデータを使用することもありません。履修される皆さんは、この趣旨を理解したうえで参加して下さい。よろしくお願いたします。 http://www.rede.nagasaki-u.ac.jp/fye/public/tips/		

2010年度 前期	曜日・校時 金3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566005006 授業科目/(英語名)	●社会と歴史(環境と平和の社会学) Society and History		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 201	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 戸田 清 / toda@nagasaki-u.ac.jp / 環境科学部 4階環 407 番研究室 / 095-819-2726 / 月曜 15-17 時			
担当教員(オムニバス科目等)	戸田 清		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 社会学と平和学の観点から、環境問題、平和問題、人権問題など現代社会の様々な社会問題を分析し、歴史的背景を理解する思考力を養う。 授業方法(学習指導法): 現代社会で生じる問題を社会学と平和学の観点から分析する方法について「授業内容」で示したような具体的事例を通じて学ぶ。映像資料を活用する。教科書を通読しておくとう理解が容易になる。 到達目標: 直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力、アメリカ問題、核の軍事利用と民事利用、水俣病、カネミ油症、女子割礼、戦争犯罪などについて説明できるようにする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 16回目は定期試験となります。 第1回 4月16日 社会学と平和学 第2回 4月23日 水俣病その1 第3回 4月30日 水俣病その2 第4回 5月 7日 カネミ油症 第5回 5月14日 じん肺とアスベスト 第6回 5月21日 日本の戦争犯罪その1 細菌兵器 第7回 5月28日 日本の戦争犯罪その2 第8回 6月 4日 アメリカの戦争犯罪その1 原爆投下 第9回 6月11日 アメリカの戦争犯罪その2 劣化ウラン兵器 第10回 6月18日 日本の入管・難民政策と医療 第11回 6月25日 民衆法廷 第12回 7月 2日 スクールオブアメリカズ 第13回 7月 9日 宇宙の軍事化 第14回 7月16日 女子割礼 第15回 7月23日 人間と類人猿ボノボの比較			
キーワード	直接的暴力、構造的暴力、アメリカ問題、戦争犯罪、水俣病、ボノボほか		
教科書・教材・参考書	教科書は戸田清著『環境正義と平和』(法律文化社2009年)。参考書は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	試験(70%)、毎回のミニレポート(30%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標	内容的には全学教育の教養特別講義(平和)、平和講座、環境科学部の環境社会学Ⅰ、環境社会学Ⅱと多少関連する。		
備考(準備学習等)	教科書を通読すること。なお試験は教科書持ち込みとなる。 http://todakiyosi.web.fc2.com/		

2010年度 後期	曜日・校時 火2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566005007 授業科目/(英語名)	●社会と歴史(西洋古代史) Society and History		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 321	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 堀井 健一 / pericles_kh@yahoo.co.jp / 教育学部本館 6階 6 1 1 番研究室 / pericles_kh@yahoo.co.jp / 火曜日 5校時			
担当教員(オムニバス科目等)	堀井 健一		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 主題は「西洋古代の歴史概論」とし、教養としての古代ギリシア・ローマの社会についての知識を学びます。予習・ミニレポート・小テストの3つで歴史用語などの語彙を習得し、また読後レポートで考えて書く力を養います。ヨーロッパの古代社会の歴史と文化を知り、日本の社会・文化との差異を考えることを期待します。また、教育学部教員養成課程の学生にあっては中学社会・高校世界史の免許取得に備えて世界史の一部を学習することができます。 授業方法(学習指導法): 教科書、配布資料、パワーポイントによるプレゼンテーションを用いて歴史の流れ、要点を理解できるようにします。 到達目標: 西洋古代の歴史と文化の特徴を説明できるようにすること。ヨーロッパの古代の歴史・文化と日本の歴史・文化との差異を理解すること。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 主題は「西洋古代の歴史概論」とし、教養としての古代ギリシア・ローマの社会と文化について講義します。最後にこの古代ギリシア・ローマの文化が西洋文明の源流となった事情を説明して、ヨーロッパ文化の一側面を理解してもらいます。 第1回 10月5日 オリエンテーション、「歴史とは何か？」 第2回 10月12日 古代ギリシア～ポリス世界 第3回 10月19日 古代ギリシア～アテナイ国制史 第4回 10月26日 古代ギリシア～戦争と同盟 第5回 11月2日 古代ギリシア～アレクサンドロスの遠征 第6回 11月9日 小テスト～アテナイの民主政など、ギリシア文化の成立と展開1～哲学者について1 第7回 11月16日 ギリシア文化の成立と展開2～哲学者について2 第8回 11月30日 ギリシア文化の成立と展開3～美術について 第9回 12月7日 ギリシア文化の成立と展開4～演劇について 第10回 12月14日 小テスト～古代ギリシアの文化、古代ローマ～共和政時代1 第11回 12月21日 古代ローマ～共和政時代2 第12回 1月11日 古代ローマ～元首政と帝国 第13回 1月18日 古代ローマ～帝国の分裂とキリスト教 第14回 1月25日 小テスト～古代ローマ、中世ヨーロッパの12世紀ルネサンス 第15回 2月1日 ヨーロッパの大学と西洋文明の源流としてのギリシア・ローマ～総括の代わりに			
キーワード			
教科書・教材・参考書	山本茂他『西洋の歴史〔古代・中世編〕』ミネルヴァ書房		
成績評価の方法・基準等	小テスト(20×3=60点)、課題図書読後レポート(20点、主として理解度・文章構成力をみる)、調べレポート(10点)、歴史用語の予習内容の発表等(10点)		
受講要件(履修条件)	3分の2以上の出席を義務付ける。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 火4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566005010 授業科目/(英語名)	●社会と歴史(テストの科学とその歴史) Society and History		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 429	
対象学生(クラス等) 全学年	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 木村 拓也 / kimura-t@nagasaki-u.ac.jp / アドミッションセンター(入試課奥) / 095-819-2115 / 随時(メールでアポイントを必ず取ること)			
担当教員(オムニバス科目等)	木村 拓也		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい:【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。 授業方法(学習指導法):講義方式 到達目標:テストにおける心理学的・社会的・歴史学的・統計学的見方を修得する。テストデータを用いた項目分析が実施可能となる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 入学試験・就職試験・資格試験・昇格(昇任)試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する科学的な知識に接する機会 は 殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を、歴史学・社会学・心理学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」(test theory)と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行うことを目的とする。「テスト」を単に「害悪」と捉えるのではなく、「テストの結果が、個人の処遇や人生を大きく左右するものであるが故に、その実施にあたっては、細心の注意を払うべき類のものである」との認識に立って、よりよい「テスト」を実施していくための「基礎教養」の修得を目指す。 第1回 10/5:オリエンテーション 第2回 10/12:テストの基礎――暗黙のルールとその形式、テスト作成手順 第3回 10/19:テストの社会学――学歴社会の理論、メリトラシー論の概要 第4回 10/26:テストの心理学――社会心理学から見た大学入試の公平感 第5回 11/2:テストの歴史学――大学入試の原理原則の変遷 第6回 11/9:テストの制度設計(1)――大学入試の妥当性評価、追跡調査と選抜効果、合計得点方式 第7回 11/16:テストの制度設計(2)――学力調査の目的と方法 第8回 11/30:テストの統計学(1)――項目分析と統計的方法 第9回 12/7:テストの統計学(2)――2値データの相関係数 第10回 12/14:テストの統計学(3)――信頼性 第11回 12/21:テストの統計学(4)――妥当性 第12回 1/11:テストの統計学(5)――項目反応理論 第13回 1/18:テスト現場の実際(1)――人事アセスメント(採用試験・昇任人事)の考え方 第14回 1/25:テスト現場の実際(2)――データ分析の事例紹介(M-1 グランプリの信頼性分析) 第15回 2/1:まとめ			
キーワード	テスト理論、大学入試、学力調査、人事アセスメント		
教科書・教材・参考書	基本的には資料を配布します。課題提出のために、課題図書を購入する必要があります。 課題図書:日本テスト学会編『テストスタンダード』(金子書房、2007年) 参考書:肥田野直『心理学研究法7 テスト1』(東京大学出版会、1972年) 池田 央『心理学研究法8 テスト2』(東京大学出版会、1973年) 荒井克弘・倉元直樹編『全国学力調査――日米比較』(金子書房、2008年)		
成績評価の方法・基準等	期末に課す読書レポートとデータ演習レポート(1回)の評点を合計して評価する。 課題図書を購入する必要がありますので注意すること。		
受講要件(履修条件)	統計学の基礎知識があることが望ましいが、初学者にも十分に配慮する。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 月4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566005008 授業科目/(英語名)	●社会と歴史(地域活性化とまちづくり) Society and History		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 429	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 新田 照夫 / t-nitta@nagasaki-u.ac.jp / 生涯学習教育研究センター / 095-819-2234 / 毎週水曜日 13時～14時まで、その他の時間に希望する場合は事前にEメールなどで予約を取ることをめざす			
担当教員(オムニバス科目等)	新田 照夫		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 私たちが社会で生活する限り、人との関係は無視できない。本授業をとおして人間関係というものを「公共性」の視点から考えることができることを期待したい。 授業方法(学習指導法): 指定のテキストに加えて、教師が提示する教材と資料に基づいて授業を行う。 到達目標: 「どのような人間関係を創造していくか」はその人の人生を決定すると言っても言い過ぎではなかろう。本授業では人間関係を創造する手掛かりを、「新たな公共性の創造と私たちの生活」としてとらえ、「規範科学」としての社会学あるいは「現実科学」としての社会学の視点から考えていくことをめざす。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) A: 社会的行為としての「私たちの生活」 第1回、第2回 B: 現代社会の生活 第3回、第4回、第5回 C: 現代社会の生活様式と個人 第6回、第7回、第8回 D: 国家に直接結び付く「公」の概念の希薄化と新たな「公共」場面の登場 第9回、第10回、第11回、第12回、第13回、第14回 第1回 私たちの生活と社会: 「生きる」「生活する」「大人になる」「学び」を考える 第2回 社会学の二つの系譜: 「規範科学」としての社会学と「現実科学」としての社会学 第3回 アジアの中の日本: グローバル社会で生きるための私たち日本人の課題を考える 第4回 意図的に作られる社会的弱者: 女性に対する暴力が頻発する理由および社会的背景を考える 第5回 女性とジェンダー問題: 二次被害の問題について考える 第6回 転換期にある現代社会: 転換期にある工業化社会と私たちの生活価値観の変化: これからの社会が求める「公共性」と「個性」 第7回 「個」と「社会的規範価値»: 公共空間の規範としての社会的規範 第8回 社会的規範価値の欧米比較: 自然観・社会観の違いと規範価値の作り方の相違 第9回 新たな公共空間の規範価値①: 規格・基準行政からの解放 第10回 新たな公共空間の規範価値②: 経済効率性からの解放 第11回 新たな公共空間の規範価値③: 社会的規範価値の欧米の学説 第12回 カントの公共性論: 自分の理性をあらゆる点で公的に使用する自由 第13回 ハンナ・アレントの公共性論: ハンナ・アレント『人間の条件』 第14回 技術革新と自然破壊: 工業化がもたらす、社会の都市化と自然破壊を考える。 J. ルソー 第15回 特別講義			
キーワード	公共性		
教科書・教材・参考書	新田照夫著『生涯学習と評価: 住民自治の主体形成をめざして』(大学教育出版: 岡山)		
成績評価の方法・基準等	毎回授業の最後に求める感想および小レポートを総合して成績評価を行う。 ①提出用授業ノート: 25点 ②連想法に基づく感想: 25点 ③ワークシート: 25点 ④質問なども含めた小レポート: 25点		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			